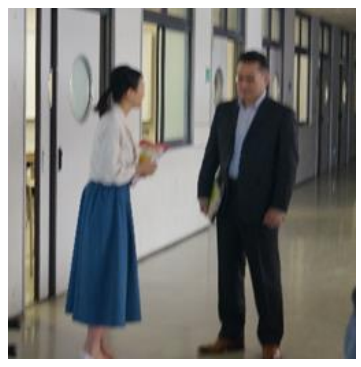
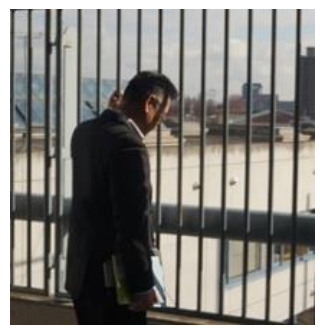
不祥事防止啓発DVDの概要

2019.3.29_ﾌﾟﾚｽﾘﾘｰｽ配布資料

		物語の概要	視聴の狙い
場面1 被害者と友人の登校場面	 	早朝の街角。待ち合わせ場所で同級生を待ちながら、被害生徒はスマホの画面を見ている。画面には「学校教師また不祥事」の文字が躍っている。 同級生がきて二人で歩きはじめるが、盗撮に関する話題では、二人の会話はかみ合わない。とうとう被害者は「あんたに何が分かる」という言葉を友人に言い捨てて立ち去ってしまう。	被害に遭った生徒の心理的打撃の深刻さや、生徒間の友人関係にまで影響が出ることを理解する。
場面2 被害者の自宅の様子	 	被害生徒の家。生徒は自室に閉じこもり、膝を抱えてうずくまっている。心配した母親がドアの前から呼びかけるが反応はない。 階下では父親がイライラしながら新聞を読んでいる。テレビで事件のニュースが流れ、父親は舌打ちして消す。 生徒の部屋の前からなすすべなく戻ってきた母親と会話を始めるが、自然と言い合いになる。学校から、様子を聞く電話がかかってくるが、父親が電話を奪い取り、学校に怒りをぶつける。	被害生徒の家族が受ける深刻なダメージについて理解する。 家族の学校に対する怒りの受け止め方や、家族への声掛けの方法について考える。
場面3 現場となった学校での教師同士の対話	 	事件のあった学校。女性教師が教頭に出勤のつらさを訴える。その訴えは「保護者にあわせる顔がない。視線が怖い。卒業生も影響を受けている」と広がっていく。 その後、二人の会話は不祥事防止研修の話題に移り、「あの（事件を起こした）先生も不祥事防止研修に出てたのでしょう。そんな意味のない研修なんか出たくないです」と教頭に詰め寄る。 教頭は自分の研修の進め方が甘かったのかと自問自答する。	事件が起きた学校での影響の大きさ（教師全員はもちろん、卒業生や地域生活にまで影響は広がる）を理解する。 時間が限られているなかで、研修の質の重要性を考える。
場面4 近くの学校での校長訓示とそれを聴講する教諭	 	現場となった学校の近くの中学校。校長が教員を前に、緊急の校長会があったことや、教育長からの訓示内容を話している。 教師たちは真面目に聴いているが、1人の教諭があくびをかみ殺す。 その教諭の背後に天使と悪魔が現れ、驚く教諭を尻目に「そんな態度でいいのか」「不祥事をどう思うんだ」と問いただす。教諭は「不祥事なんてダメなのは当たり前だし、自分は絶対しない」と断言するが、悪魔は「僕たち不祥事が起きた学校に行ってきたけど、起したのはあなたみたいな真面目な若い先生だったよ」と言い放つ。うなされていた教諭は、同僚に揺り起こされ悪夢から目覚める。	上司からの訓示だけではなかなか効果が上がらないことを理解する。 「自分は不祥事を起さない」 「だから自分には関係ない」という他人事意識をもっている教諭の態度から、何が学べるかを考える。